

※委員評価欄の「-」は、法人の自己評価と同じ、の意  
 ※確認事項がある項目は、小項目番号を○で囲っている

小項目	27年度評価		コメント(素案)	各委員からのコメント
	自己評価	委員評価		
1	A	-	他の公立病院や機構の5病院の医師充足率を記載して頂くことが望ましい。	他の公立病院との比較等のベンチマークがあるとよい。 病院ごとの実績値があったほうがわかりやすい。
○2	A	-	(要検討)	病院ごとの実績値があったほうがわかりやすい。
3	A	-	計画に基づきしっかりと取り組んでいる。特に、採用試験における、他職種による評価の実施は、チーム医療の推進という点でもよい取組である。	採用試験において他職種による評価を実施するというのは、チーム医療の推進という点でもよい取組である。 計画に基づきしっかりと取り組んでいる。
4	A	-	新専門医制度の本格的運用は来年からだが、それに向けた準備を着実に進めている。	新専門医制度の本格的運用は来年からだが、それに向けた準備を着実に進めている。
○5	A	-	県立病院として、今後も積極的に実習の受入を行ってほしい。なお、「医療人材の育成」についての取組を評価するという意味では、各種認定試験の合格実績等を基準とすることが望ましい。	実習の受入についてはどこの病院も苦労している。積極的受入を今後も続けてほしい。 衛生看護専門学校の実習先の一つとなっていた汐見台病院が、民間病院に移譲された。そのような状況の中、県立病院として、受入を積極的に行ってほしい。 実習の受入が、「医療人材の育成」と言えるのか疑問。例えば、看護師については、各種認定試験の合格実績等を評価するほうがよいのではないか。
6	A	-	(要検討)	医師事務作業補助者を増やしたのは評価できる。増やした補助者を、今後いかに育成していくのかもポイントである。 機能的にも上手くいっており、よい取組であると思う。 現在、医療事務補助者が各病院にどの程度配置されているかが不明。そのため、高度医療セクレタリーの導入をどのように評価すればよいかわかりづらい。
8	A	-	CRC業務を兼務で行う病院が多い中、CRC業務を専門に行う体制が整っているのは非常によいことである。	CRC業務は、兼務で行う病院が多い。それと比較すると、CRC業務を専門に行う体制がどとのっているというのは非常によいことだと思う。

27年度評価				
小項目	自己評価	委員評価	コメント(素案)	各委員からのコメント
9	S	-	(要検討)	評価はSでよい。 足柄上病院は他の病院と異なり専門病院ではない。他の専門病院と並列的に評価してよいのか疑問がある。
		-		腫瘍組織センターにおける包括同意文書の改正については、改正の仕方によっては組織の提供者にとって不利になることがある点に留意する必要がある。
		-		課題にもあるように、病院ごとに見るとD評価となっているものもある。個別に臨床研究の推進に努めていく必要がある。
		-		精神医療センターについては、目標値が低いからS評価になったのではないか。このような目標設定には違和感がある。
10	A	-	機器の導入だけではなく、導入の必要性や導入効果も併せて評価すべきである。また、採算性や効率性の評価基準が必要である。	機器を導入したからA、というのはいかがなものか。機器の導入によってそれがどのような効果を生んだのか、その機器が本当にその病院にとって必要だったのか、といったことが重要なのではないか。 また、採算性や効率性が上がったかどうかについても、それを判断するための数値が必要である。
11	A	-	しっかりと取り組んでいる。 逆紹介に関する数値は重要であり、件数ではなく紹介率・逆紹介率で目標を設定してもよい。また、地域連携という観点から、地域との関係構築の程度を評価できる指標を考えるべきではないか。	地域連携という観点からは、逆紹介に関する数値は重要である。
		-		しっかりと取り組んでいる。今後も頑張ってほしい。 紹介・逆紹介に関する実績だけでなく、地域との関係構築の程度を評価できる指標を考えてもよいのではないか。
		-		紹介・逆紹介の実績は、目標を設定すべき項目。しかし、件数ではなく、紹介率・逆紹介率で目標を設定すべき。
14	S	-	素晴らしい実績であり、S評価は妥当である。 ただし、感染症防止院内研修の成果を測定できる基準の設定を検討すべきである。	感染症防止院内研修の成果を測定できる尺度を工夫してもよいのではないか。
		-		目標との関係では、S評価は妥当である。ただ、研修の回数が挙げられただけでは、研修の成果があったのかを判断することができない。
		-		素晴らしい実績である。
15	A	-	充実した活動がなされており、取組の成果がしっかりと現れている。	時系列で実績値の推移を見ると、これまでの取組の成果がうかがえる。
		-		充実した活動がなされており、実績も十分である。
16	A	-	研修が患者へのサービス向上に活かされているか等、各種研修の効果検証も必要である。また、計画の中に、具体的な取組項目を列記すべきである。	各種研修（例：アサーティブコミュニケーション）の効果がどの程度あったのか検証することも必要なのではないか。
		-		研修が、患者へのサービスの向上に活かされているか、というのが大事な点である。
		-		計画の中に、具体的な取組項目を列記すべき。

27年度評価					
小項目	自己評価	委員評価	コメント(素案)	各委員からのコメント	
17	A	-	支払いの多様化を通じた利便性の向上にしっかりと取り組んでいる。 また、各病院が、待ち時間の短縮に向けてしっかりと工夫し取り組んでいる。	支払いの多様化を通じた利便性の向上にしっかりと取り組んでいる。	
		-		待ち時間が特段短くなったわけではないが、長くもなっていない。各病院が、それぞれ待ち時間の短縮に向けてしっかりと工夫し取り組んでいると感じる。	
18	A	-	(要検討)	公開講座については、出席者数や出席者の満足度についてもしっかりと整理していただきたい。	
		?		精神医療センター、がんセンターにおける広報誌の発行回数が少ないのではないかと。足柄上病院の実績は素晴らしいが、全体で見るとA評価でよいかは疑問。	
19	A	-	非常によい実績である。	非常によい実績である。	
20	A	-	(コメント例) クリニカルパスの作成・見直しを適切に行うとともに、適用率を上げる必要がある。 また、地域連携クリニカルパスと院内クリニカルパスについて、目標の重きの置き方を明らかにすべきである。	今後もクリニカルパスの作成・見直しを適切に行うとともに適用率をあげる必要がある。クリニカルパスの適用率を参考値として示すことを検討すべきである。	
		-		(要検討)	地域連携クリニカルパス件数は、次年度以降の実績に期待する。
		-		(コメント例) クリニカルパスの作成・見直しを適切に行うとともに、適用率を上げる必要がある。 また、地域連携クリニカルパスと院内クリニカルパスについて、目標の重きの置き方を明らかにすべきである。	地域連携クリニカルパス件数がC評価であるのに対して、院内クリニカルパス件数はA評価となっている。総合的な評価をAとしているということは、院内クリニカルパス件数に重きを置いているということだと思うが、そうであるならば、目標の重きの置き方を明記してもよいのではないかと。
		-			クリニカルパスの作成件数だけでなく、クリニカルパスの使用件数も併せて評価すべきではないかと。
21	A	-	今後このような活動が組織に定着していくことが期待される。	今後このような活動が組織に定着していくことが期待される。	
22	D	-	年次休暇取得率が低い原因について詳細な分析を行った上で、実効性のある制度の構築を検討する必要がある。 また、職種ごと、病院ごとの休暇取得率を把握し、取得率の低い職種、病院については特段の対応が必要である。	年次休暇取得率が低い原因につき、アンケートや聞き取り調査の実施など詳細な分析を行い、適切な改善を図ることが必要である。	
		-		実効性のある取組について検討を行う必要がある。	
		-		年休を取得しやすい環境整備が必要。職員一人一人の取得状況を見て、管理者が指導していくべきである。	
		-		目標値は、平成26年度の実績値の2倍近くとなっている。現場においてよほど具体的な対策をとらない限り、達成できない数字であると感じる。また、職種ごとの年次休暇取得率を把握し、取得率の低い職種については特に対応が必要とされる。	
		-		病院別に判断したほうがよいのではないかと。休暇の取得率を高める制度を導入したほうがよい。	

27年度評価				
小項目	自己評価	委員評価	コメント(素案)	各委員からのコメント
23	A	-	足柄上病院の産科医不足については、引き続き病院機構の全力を挙げて対応していく必要がある。	足柄上病院の産科医不足については、足柄上病院だけの問題ではなく、病院機構全体の問題として捉え、理事長が判断すべき課題である。
24	S	B	<p>(要検討)</p> <p>(コメント例) 過去の分娩件数と比較すると、現在の分娩件数は地域ニーズを満たしていない。ニーズを満たせる体制整備に努めた上で、目標値を再検討すべきである。</p>	第1期期間全体でC評価、平成26年度はB評価であった。今年度目標値は、昨年実績値の1/2であり、目標値が低すぎるといえる。したがって、単に当年度目標値を達成したことをもってS評価とすることは適切とはいえない。26年度の助産師主導の分べん件数165件に対し、27年度は147件(89%)であるためB評価とした。小田原市立病院との役割分担の明確化を進め、適切な目標値設定が必要である。
		-		地域の医療ニーズを踏まえて、目標値を再検討する必要がある。
		-		目標との関係ではSでよい。しかし、地域のニーズを満たすこと、及び患者が足柄上病院に行ってよかったと満足することを最終目標として取り組んでいくべきである。
		評価不能		過去の分娩件数からすると、現在の分娩件数は地域ニーズを満たしていない。ニーズを満たせる体制整備に努めるべき。
		-		S評価であるということは構わないが、そもそも目標値が妥当であるのか、という点に疑問はある。
-	目標値を下げること自体は理解できるが、下げた目標値を達成したからS、というのはいかかなものか。			
25	A	-	在宅への以降は今後ますます重要になる。引き続き努力して頂きたい。	在宅への移行は今後ますます重要になる。引き続き努力していただきたい。
26	B	A	<p>(要検討)</p> <p>(A評価とする場合のコメント例) 心臓カテーテルは、内視鏡等と異なり汎用性がないため、医療ニーズが限定的である。また、心臓カテーテル治療件数は、病院の努力で簡単に増やせるものではない。心臓カテーテル治療件数は目標値に届いていないものの、A評価が妥当である。</p>	心臓カテーテルは、内視鏡等と異なり汎用性がないため、医療ニーズが限定的である。また、心臓カテーテル治療件数は、病院の努力で簡単に伸ばせるものではない。心臓カテーテル治療件数が目標値に届かなかったことをもってBとするのは妥当ではないのではないかと。
		-	<p>(B評価とする場合のコメント例) 稼働率を上昇させることに注力するのか、稼働率の上昇だけでなく公的な病院としての役割を果たすことを目指すのか、日頃から機構の中で議論していくべきである。</p>	稼働率を上昇させることに注力するのか、稼働率の上昇だけでなく公的な病院としての役割を果たすことを目指すのか、日頃から機構の中で議論していくべきである。
27	A	-	他の医療機関では治療が困難な患者を積極的に受け入れており、周産期医療機関としての役割を果たしている。	他の医療機関では治療が困難な患者を積極的に受け入れており、周産期医療機関としての役割を果たしている。
		-	NICUの増床と併せて、地域連携による在宅への移行が非常に重要であるため、効率的な運用に向けて引き続き取り組んでいただきたい。	NICUの増床と併せて、地域連携による在宅への移行が非常に重要である。課題にあるよう、効率的運用に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

27年度評価				
小項目	自己評価	委員評価	コメント(素案)	各委員からのコメント
30	A	-	退院後訪問看護件数により重きを置いて、S評価としてもよいのではないか。緩和ケア外来患者数については、緩和ケアに対する意識を高めるため一層の努力を期待する。	緩和ケアに対する意識を高めるために、一層の努力を期待する。
		S		退院後訪問看護件数が素晴らしい。この数値により重きを置いて、S評価としてもよいのではないか。
31	S	-	(要検討)  (コメント例) 栄養相談実施件数の着実な増加は評価できるが、前年度実績を大幅に下回る目標値は低すぎるため、適切な目標値を設定する必要がある。また、栄養相談実施件数の他に、より実態を把握できるような指標がないかについても検討が必要である。	栄養相談実施件数の着実な増加は評価できる。しかしながら27年度目標値は前年度実績の約8割と低すぎるといえる。今後は、適切な目標値設定について検討が必要である。
		-		栄養相談実施件数の他に、より実態を把握できるような指標がないか検討してほしい。
		-		目標値の低さが気になる。
		-		細やかな工夫がなされており、素晴らしい。
		-		前年度の実績を大幅に下回る数値目標に基づく評価が、はたして適切なものか。
32	A	-	精神科救急システムにおける基幹病院としての役割を十分果たしており、非常に頑張っている。	精神科救急システムにおける基幹病院としての役割を十分果たしている。
		-		非常に頑張っている。
33	B	A	(要検討)  (A評価とする場合のコメント例) 全体的に目標値が高いため目標は達成できていないものの、思春期病棟、ストレスケア病棟、依存症病棟の病床利用率が大幅に上昇していることから、A評価が妥当である。  (B評価とする場合のコメント例) 医療観察法に関しては、努力が実施数の増加に直結しないという要素がある。中核病院として、高度専門的な医療に対して引き続き取り組んでいただきたい。	設定した数値目標は達成できなかったものの、病床利用率は思春期病棟(39.6%→74.2%)、ストレスケア病棟(64.4%→87.9%)、依存症病棟(66.1%→89.5%)と大幅に上昇していることからA評価が妥当である。
		-		医療観察法に関しては、努力で実施数を上げるわけにはいかないという要素がある。高度専門的な医療に対して中核病院として、引き続き取り組み組んでいただきたい。
		-		目標件数が高すぎるのではないか。
34	A	S	外来化学療法件数が伸びているのは、がんセンターとしての機能が充実してきていることの証で、非常によいと思う。ただし、現在の50床につき、1日平均32床程度の利用であるため、今後さらなる利用率の向上を目指してほしい。  (なお、3項目合計の平均目標達成率は110%であり、S評価が妥当である。)	手術件数、外来化学療法件数、放射線治療実患者数はそれぞれ目標を達成しており評価できる。3項目合計の平均目標達成率は110%であり、S評価が妥当である。外来化学療法については、現在の50床につき、1日平均32床程度の利用であるため、今後さらなる利用率の向上を目指して欲しい。
		-		外来化学療法件数が伸びているのは、がんセンターとしての機能が充実してきていることの証で、非常によいと思う。

27年度評価				
小項目	自己評価	委員評価	コメント(素案)	各委員からのコメント
36	S	-	開設、稼働から間もない中、素晴らしいスタートを切ったといえる。今後も、治療患者の拡大に向けての円滑な運用と広報による普及に期待したい。	治療患者の拡大に向けての円滑な運用と広報の成果に期待する。
		-		今後の普及に期待したい。
		-		開始して間もないが、順調な件数と評価できる。
		-		開設、稼働間もない中で努力されている。S評価でよい。今後さらに期待したい。
		-		今後の本格的な運用に向けて、素晴らしいスタートを切ることができたと思う。
37	S	-	指導件数だけではなく、病棟稼働率等、収益に結びつくような視点での評価項目を立てるべきではないか。	指導件数だけではなく、病棟稼働率等、収益に結びつくような視点での評価項目を立てるべきではないか。
39	B	-	手術件数が目標に達しなかった原因をしっかりと分析する必要がある。アブレーション件数は全体的に減少傾向にあり、循環器呼吸器病センターとして他の病院との差別化を図らなければ、件数増は期待できない。	アブレーション件数は全体的に減少傾向にあり、循環器呼吸器病センターが他の病院との差別化を図っていかないと、件数増は期待できない。
		-		手術件数が目標に達しなかった原因をしっかりと分析する必要がある。
42	A	-	参考値ではあるが、患者数の実績は非常に評価できる。	参考値ではあるが、患者数実績は評価に値する。
44	A	-	病床利用率や未収金の残高等を目標値に掲げることを検討すべきである。未収金については、回収実績が芳しくないのであれば、他の回収方法や、未収金の発生の防止策を検討すべきである。また、回収専任の職員が未収金の回収率にどの程度貢献したのかがわかったほうがよい。	病床利用率、未収金残高比率等を目標値に掲げることを検討する必要がある。
		-		回収実績が芳しくないのであれば、他の回収方法や、そもそも未収金の発生を防止するための方法を検討すべきである。
		-		未収金がいくらあるかを表記したほうがよいのではないか。回収専任の職員を置くことで、回収率にどの程度の貢献があったのかがわかるとよい。

27年度評価				
小項目	自己評価	委員評価	コメント(素案)	各委員からのコメント
46	S	-	(要検討)	国は後発医薬品の採用率を数量ベースで平成29年央に70%以上、30年～32年のできるだけ早い期間に80%以上とすることを目標としている。機構が設定している目標値は低すぎるといえる。A評価が妥当である。平成31年度の目標を引き上げるとともに、着実な推進に向けての具体的な取り組み行うことが必要である。
		-	(コメント例) 高度先進医療をも担っており、必ずしも民間病院と同程度に後発医薬品を採用できるわけではないが、国が定めた目標を大幅に下回っているため、その理由を明らかにするとともに、目標値の引き上げを検討すべきである。	高度先進医療をも担っており、必ずしも民間病院と同程度に後発医薬品を採用できるわけではないと思う。ただし、平成31年度の目標値も7割以下でよいという根拠を明らかにしておく必要がある。
		-		国が定める70%という目標と比べると、目標値の低さが気になるが、目標達成率に鑑みてSでよい。
		-		なぜ国が掲げた目標を大幅に下回る目標を設定しているのか。この項目は、病院の努力によってすぐに達成できるものであるから、もっと高い目標を設定すべき。
48	A	-	(要検討)	医師を確保して小児科の診療体制を整備すべきところ、運営費負担金収益は減少している。病院機構の考えを確認したい。